

## 中世木モニタリング

日 時 7月16日(木) 10時~12時

場 所 南丹市日吉町中世木地区

天 候 晴れのち曇り

参加者 白石、眞田、清水、古結、正木、岡

新型コロナの感染拡大ということで一時中止をしていましたが、対応策を講じつつ再開ということになりました。梅雨が明けず、雨の日が続く中、この日は天気恵まれ青空の下でのモニタリングとなりました。コロナ感染拡大前には地域の人も入って観察会的な内容で調査をやろうと計画していたのですが、今回はコロナのこともあり主宰の前田さんと本会のメンバーで実施ということになりました。

久々に野外に出たメンバーの顔は明るく生き生きとしていました。まずは林道の山側と谷側から調査に入りました。前田さんの畑の法面ではネジバナ、ヤブカンゾウ、アキノタムラソウ、コウゾリナ、クルマバナ、ホタルブクロなどが色を添えて咲いていました。つる性ではカエデドコロがオレンジの花を咲かせていました。ポタンズルやタチドコロ、ヘクソカズラ、キレハノブドウなどはまだ蕾状態です。他にカラスビシャクやオオニシキソウが足下で花が咲き出していました。一瞬、これはすごいナガバノアキノナギツカミかと思ったのですが、刺がさほどなく、葉の基部も形状が違うところからナガバノヤノネグサであるとわかりました。

畑から山に行く林道までの林縁を通る里道は林縁植生あるいはマント群落と呼ばれる植生が目立つ。その代表的なものとしてつる性植物や主幹のない低木類の植物相の出現です。

ここで見かけたつる性植物としてはジャケツイバラ、サルナシ、センニンソウ、ミツバアケビ、エビヅル、ナガバモミジイチゴ、ツルグミ、コジキイチゴ、サルトリイバラ、キレハノブドウなどです。またマント群落を構成する低木としてはウツギ、ダンコウバイ、ヤマコウバシ、ガマズミ、ナワシログミ、ヌルデ、ヤマハゼ、コウヤボウキ、トウグミなどが出現していました。希少種としては京都府レッドデータ準絶滅危惧種のカヤランを確認しました。ソデ群落として草本もアカショウマ、アキノタムラソウ、センボンヤリ、ヤブハギ、ノアザミなど多く確認しました。

林道に入って滝まですすみますが、今回は滝の下までは降りられませんでした。ネムノキ、カマツカ、クマノミズキ、キブシ、バイカウツギ、ガマズミ、ホオノキ、コナラ、クリなど少し林相が変わり高木や亜高木が増えました。草本ではヤマミズ、ミヤコミズ(京都府レッドデータ絶滅危惧種)、イワタバコ、アケボノソウ、チャルメルソウ、ミズタバコ、ナガバノヤノネグサ



ネジバナ



キツネノマゴ



ノアザミ

など湿性の土地を好むものが多く確認出来ます。ダイコンソウやオカタツナミソウ、トウバナも各所に見受けられました。

この後、前田宅で密を避けて野外で昼食をとり、地域の山菜などで作られた佃煮などを御馳走になりました。中でもサンショウの木の内皮を使って作られた辛皮の佃煮は、辛さがひときわ際立ち珍味であるとともに、作り方なども教えて貰い村里に伝えられる伝承などの話にも花が咲きました。今後地域の方とともにモニタリング出来れば、この地域の方の自然との接し方などの民俗的なことも教えていただき、自然への関わりが学べることになり一層豊かな自然観が得られるのではと思った機会となりました。(清)



アカショウマ



ヤブハギ  
(ヌスビトハギに似るが茎の上部には葉がない)  
←ヤブハギの花  
ヤブハギ全姿→



ノチドメの葉の形状によく似たオオチドメ ↑オオチドメの花



ホタルブクロ (山の下部斜面に多数分布)



アキノタムラソウの実



ウツボグサ



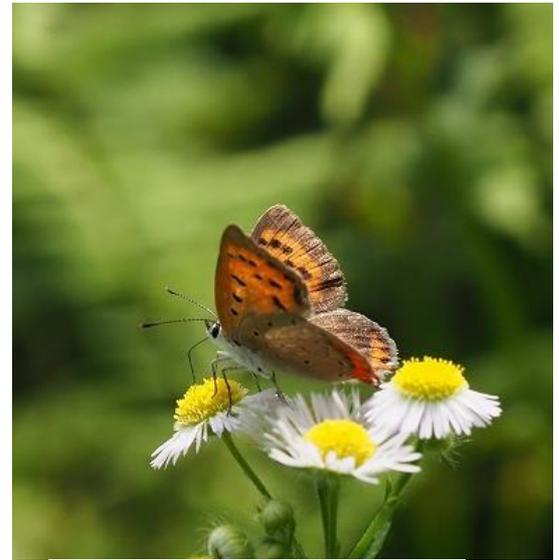
ミドリヒョウモン♀  
(食草スマレ・タチツボスマレ他以前は多かったのに減少を感じます)



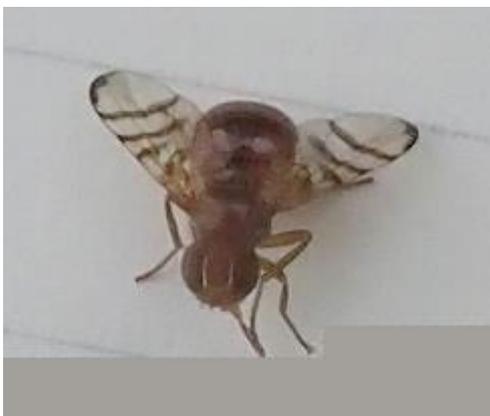
モリオカメコオロギの幼虫



ナツアカネ未熟個体



ベニシジミ  
(食草ギシギシ・スイバ)



ミスジハマダラミバエ



サワガニ



チュウガタコガネグモ



ホソバセセリ

(食草イネ科・ススキが主、京都近郊で減少種)



オオシオカラトンボ♀



ウスイロコノマチョウ

(食草ススキ・ジュズダマ・メヒシバ・サトウキビなど  
イネ科)



イナゴモドキ

この地域では、特筆できる発見です。ウスイロコノマチョウの土着は屋久島以南の南西諸島、奄美～八重山諸島小笠原諸島ですが、九州から北海道まで採集記録は全土に及びます。それはウスイロコノマチョウが迷蝶として移動してくるからです。温暖化で北上とは違い、移動個体から発生して各地で観察されます。市街地でも見られ、小生も自宅前のケヤキの幹に止まっているのを採集しています。京都御苑でも記録があり。神出鬼没の種。観察されることは稀です。(真田)